

第6学年緑組算数科学習指導案

1 単元 「比例」

2 単元について

- (1) 児童は、低学年から乗法の学習などを通して倍の概念を、また、関数表、 x や y を使った式と、その2量の変わり方などの学習から、関数的な考え方を学んできている。

さらに、6学年では比と比の値や拡大図と縮図の関係で、2量の関係に着目して、同じ数をかけたり、同じ数で割ったりすることにより、2量の対応や変化の特徴を見つけることを学習している。

しかし、2量の関係を図や表、式を使ってとらえ、変化の規則性を見つけることや、日常事象を関数的にとらえる力はまだ十分ではない。そこで、本単元で伴って変わる2つの数量について、それらの関係を調べたり、考えたりする能力をさらにのばすことをねらいとしている。

- (2) 本学級（少人数：在籍21名）の児童は、「図形の拡大と縮小」の単元では、学習の最後に実際に校舎の高さを求める学習をした。実測し縮図をかいて求めた校舎の高さと、実際の校舎の高さにはあまり違いがなく、この授業を通して、児童は算数の有用性を感得した。本単元でも、ロープやホースの長さを図り、計算上で求めたものと、実際に測ったものと比べる活動を取り入れ、比例の考えのよさに気づかせたい。

児童の身の回りには、比例の関係にある数量が数多く見られるので、そうした実際の事象と結びつけるなどして、実感を伴った理解ができるようにしたいと考えている。

- (3) 本単元では、伴って変わる2つの数量について、それらの関係を調べたり考えたりする能力をのばすことをねらいとしている。そのため、比例の意味について理解し、簡単な場合について、表やグラフを用いてその特徴を調べることを学習していく。

そのため、実際の事象と結びつけるなどして、実感を伴った理解ができるように単元構成を少し見直し、「比例」の学習の引き続きに「はかり方のくふう」の学習もすることにした。

このように、児童が自分の手で長さや重さを測ったりする活動を取り入れ、実際のデータにもとづいてしらべていくことを大切にしながら、算数のよさを感得させたい。

3 単元の目標

[関心・意欲・態度]

身の回りから、比例関係になっている、伴って変わる2つの量を見つけだそうとするとともに、日常生活にも生かそうとする。

[数学的な考え方]

比例の関係に着目して、式や表、グラフなどを用いて、能率よく問題を解決することができる。

[表現・処理]

比例関係を、式や表、グラフに表すことができる。

[知識・理解]

比例の意味や特徴がわかる。